

# ぐりふぁん letter



Vol.  
30  
2015.7

## INDEX

- ◆ イサク事業所どうぼうの家におひさま発電所が出来ました！ …… 2
- ◆ 2015年度環境学習 ～ こどもたち、先生とともに …… 3
- ◆ 電気代の中身は……？ …… 4  
2015年 総会報告
- ◆ 「若狭つながり市民ソーラー」設置報告 …… 5  
総会記念学習会「若狭つながり市民ソーラー発電所設置報告」を聞いて
- ◆ 京都市「市民協働発電制度」との関わり、そしてこれから …… 6
- ◆ 会員さん、こんにちは！ …… 7  
事務局からお知らせ  
編集後記

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

# イサク事業所どうぼうの家に おひさま発電所ができました!

社会福祉法人同胞会イサク事業所の屋上に、おひさま発電所18号機が完成しました。

事前協議は2014年春から始めましたが、少し時間が必要でした。設置する場所や資金計画、そして法人内部の調整に丁寧に取り組む必要があった結果だと考えています。



10kW規模以上の太陽光発電は、固定価格買い取り制度による設備認定を受ければ、発電した電力は全量関西電力に売電し、設備所有者は「発電事業者」となり「収益事業」に携わる、ということになります。厳密に言えば、法人の定款に謳われている

目的や事業の範囲と相入れない場合も考えられます。定款に謳っている事業に「発電事業」が含まれるかどうか、確認が必要というわけです。言うまでもなく、きょうとグリーンファンドの定款に謳われている目的は、「・・・幅広い市民の参加により自然エネルギーの地域への普及、及び省エネルギーの促進に関する事業を行い・・・」となっており、「発電事業」は目的に則った事業です。といった理由もあり、今回のプロジェクトでは必要な費用の多くを「おひさま基金」で賄い、きょうとグリーンファンドは設備の所有者となりました。今までならばこのようなケースは考えられなかったのですが、これはたまたま、きょうとグリーンファンドにかなり多額のご寄付をいただいたことで、奇しくも可能となりました。ささやかながらきょうとグリーンファンドは「発電事業者」となったわけです。

イサク事業所は、障がい者の就労を支援する事業所で、農場での農作業、生産物を活かした加工品の製造・販売、レストランやカフェなど農作物を中心にうまく六次産業化、バランスの良い就労の場を展開されているように見えました。すべてに農薬や食品添加物を使用しないよう心掛けておられることに、その大変さを思いました。私たちも打ち合わせが終わった後、レストランでおいしいランチをいただいて、とても満足しました。なかでもスイーツセットはお勧めですよ。

「自然に過剰な負担をかけずに共存していくという方向性を持ったおひさま発電所づくりに取り組むことにより、障がい者が社会の一員として同じように頑張っている姿をたくさんの方に知っていただけたら…」というイサク事業所の思いは、おひさま発電所とともにこれからも長く多くの方々に発信し続けるはずで、まさに「世の光」となることでしょう。

## イサクおひさまプロジェクト 収支報告

2015年4月

収入の部		支出の部	
寄付金(71件)	410,000	設備設置費	4,217,000
おひさま基金助成	4,307,000	印刷製本費	188,000
民間助成金	117,000	研修会講師謝金	50,000
		通信運搬費	25,000
		旅費交通費	7,000
		記録費	43,000
		事務局経費	282,000
		雑費	22,000
	<b>4,834,000</b>	合計	<b>4,834,000</b>

(単位：円、千円以下原則四捨五入)

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

## 子どもたち、先生とともに・・・



きょうとグリーンファンドでは、おひさま発電所が設置された後も、設置場所が地域の「エコ施設」になるようにサポートを続けています。サポートのかたちは、色々あります。太陽光発電だけでなく、雨水という自然の恵みをいかして雨水タンクの設置を提案したり、暑さを遮断するためグリーンカーテンを育てるお手伝いをしたり…。その中でも、施設に関わる人たちに対するはたらきかけを、特に意識しています。未来ある子どもたちに直接語り掛ける能力が特に高い人たちだからです。「地球がお熱」（温暖化のこと）や「おひさまパワーで電気がおきる」といった表現は、保育園の先生方から生まれたもので、子どもたちにはストレートに伝わっていきます。おばさんからは出てこない・・・。

保育園・幼稚園では、環境腹話術と自然観察会の2つが人気で、定例化しています。

腹話術を通して、自分たちがどんなことをすればよいか知り、小さい時から当たり前エコなことをするようにもなってくれます。子どもたちは、「知っている」から、すぐに「している」にかわってくれるので、効果抜群。失礼ながら、大人ではこうはいきません。

自然観察会は、人間だけでなく、花や木、虫や動物といった色々な生き物と一緒に暮らしていることを知り、命の大切さ、思いやりや感謝…といった心が育っていくように思います。自然の中での生活の知恵も得て、子どもたちは頼もしくなっています。

昨年度は、園の先生たちと一緒に、子どもたちに「エコ」を楽しく伝えるための「エコすごろくづくり」に取り組みました。3ヵ所で実施したワークショップから、3種類の「エコすごろく」が完成。それぞれに力作で、先生たちも自らの生活にまで切り込んで表現を工夫し、単なるお題目でない、子どもの生活に密着した内容となっています。今年度は、保育園・幼稚園の省エネに自ら効果的に取り組んでもらえるようなワークショップを提案しています。普段、職員のみなさん

も省エネを心がけ

ていらっしゃるのです

が、今一度、見直してもら

い、園のスタッフとしてみんなで気づいて、改善してもらおうという、ちょっとハードルの高いプログラムです。電気だけでなく、水やごみの削減にも取り組んでいただけたら…。このワークショップを通して、ますますエコな施設になっていただきたい。私たちも、効果的なサポートに磨きをかけたいと考えています。



(きょうとグリーンファンド 深川 佳子)

## ■ 電気代の中身は・・・？ ■

きょうとグリーンファンドが所有することになったイサク事業所屋上のおひさま発電所が発電を始め、関西電力から電気代の請求がきました？！「電気は作っているはず、必要ならばその中から使えばいいのに、なぜ？」と思われる方もいるでしょう。実は私たちもそうでした。2月3日に発電を開始しましたが、3月初め2月分の電気料金の請求がきました。定額電灯の電気料金347円也。

施工を担当してくださったエコテックさんにお尋ねしたところ、反対にビックリされました。「えっ！知りませんでしたか？パワーコンディショナー（以下パワコン）を動かす電気は、電気を売る線とは別の線からとるのです。」原発でも外部電源が必要ですね、・・・納得です。では、パワコンはどの位電気が必要で、それをどうやって測っているのでしょうか。関電の営業所に尋ねると、「パワコン2台分の電気使用量は、メーターをつけていないので定額となっています。国税庁によって決まっています」

電気料金のなかにはちゃんと再生可能エネルギー促進賦課金（11円）や燃料費調整（24.19円）も含まれています。ここまでは「お知らせ」に記載されています。このほかに、使い道が気にかかる電源開発促進税は含まれていないのでしょうか。関電の営業所に尋ねました。待つことしばし・・・。記載はないものの、ちゃんと含まれていました。

きょうとグリーンファンドが契約している定額電灯の場合は、パワコン2台分が消費すると見込んで決められている40kWh×（1,000分の375）で計算、毎月15円だということでした。再生可能エネルギー促進賦課金（11円）よりも、多い！

「固定価格買い取り制度での売電単価が電気料金を押し上げていて、負担感が増している…」というモノ言いには、違和感いっぱいです。「記載がない」のは、フェアとは言えないですね。隠蔽体質に飲み込まれない市民でいたい、と思いました。

（きょうとグリーンファンド 大西 啓子）

## 2015年 総 会 報 告

5月21日、2015年総会が終わりました。

今回の総会は、役員改選の年ではないので2014年度の事業報告、2015年度事業計画が主な議題となりました。

板倉理事長の開会のあいさつのなかで、絵本「ひかりのりゅう」の紹介がありました。なないろの光を吐き出すりゅうの絵本で「子どもたちと共にこの国の未来を考える」一冊ということです。大人である私たちは、子どもたちにどのような未来を手渡せるのか、きちんと向かい合っって子どもたちと考えねば、と思いました。

持続可能な社会を目指すきょうとグリーンファンドの事業の柱は、なんといってもおひさま発電所づくりです。2014年は障がい者の事業所におひさま発電所が出来、初めて発電事業者となりましたが、市民参加を軸とした必要な費用を分け合う協力の形は、2000年当初から少しも変わりません。まことにささやかに、しかし途切れることなく続けてきた事業です。固定価格買い取り制度の導入で、利益を生む事業となった再生可能エネルギーの発電事業ですが、市民共同発電所づくりに込めた意味をゆるぎなくつなげて、さらに広げていかねばと、改めて心に刻んだ15年目の総会となりました。

法人の状況を言えば、会員数は微減、財政基盤は相変わらず脆弱、ぎりぎり何とか回しているところですが、この状況はこれからも続きそうです。

（きょうとグリーンファンド 大西 啓子）



# 「若狭つながり市民ソーラー」設置報告

ooiみらい塾 徳庄 博美

「若狭つながりソーラー」は、若狭（滋賀県高島市1軒含む計3軒）に31kWの太陽光市民共同発電所を設置しようというプロジェクトです。その設置費用1,200万円を地域内外の市民の皆さんに出していただき設置し、共同発電所として運営していくというものです。又そのうちの一口5万円の協力金をだしていただいた方々には、毎年5,000円相当のおおい町の特産物を10年にわたりお届けさせていただき、協力していただいた方々とのつながりを深めていくことをめざすものです。またこのことを通しておおい町の農林水産業で頑張ってもらっている方々の応援もしていきたいと考えています。



この呼びかけをさせていただいたところ、皆様から協力の申込みを数多く頂き1,200万円を集めることが出来ました。実は当初一部金融機関よりの融資を受けることを予定していたのですが皆様より計画を遙かに超える資金協力をしていただき、必要でなくなりました。そして現在設置工事が完了して送電を開始はしました。発電している様子を見るでいて、多くの市民の皆様のおかげでできたソーラー市民発電所が動いていると思うと感動がじわっと湧いてきました。このプロジェクトが成功できたのは皆様のご協力があったからです。今回の取り組みを通して皆様の中にある福島原発事故以後「原子力発電所は本当に危険である、持続可能な日本のためには再生可能エネルギーの普及による脱原発の道しかない。少しでも協力したい」という熱い思いを感じさせていただきました。

政府は原発再稼働への道をまっすぐに進んでいます。しかし、わたしたちは市民レベルで再生可能エネルギーの普及をはじめとした持続可能な社会を生み出していくうねりを身近なところから作り出していきたいと考えています。今回の取り組みでその流れを形にすることが出来たと思います。私たちにとっても大きな自信となりました。



5月30日（土）・31日（日）には「若狭つながりソーラー完成を祝う会」をおおい町きのこの森で開催しました。県内外の25名の方が集まって頂き、交流会で今後に向けていろいろな御意見を頂きました。これからに生かしていきたいと思っています。有り難うございました。

きょうとグリーンファンド総会記念学習会

「若狭つながり市民ソーラー発電所設置報告」を聞いて



「原発再稼働反対」といってみても、立地地域に居住しているわけでもなく、今まで原子力の電気を享受し生活してきた「私」が言っても…、原発と共に生きてきた地域の方々のお気持ちは…何となく罪悪感が拭い去れず、すっきりしない日々でした。今回、若狭で活動されている徳庄さんのお話をお聞きする機会を得、「原発は危険、脱原発の道が持続可能な日本のため…」と考える立地地域の方が大勢いらっしゃる事がわかり、私たちも「再稼働反対、脱原発へ」と声をあげてもいいんだ、と感じることができました。今後も、きょうとグリーンファンドの活動を通じて、自然エネルギー普及に微力ながら貢献することで、原発のない、必要のない未来を目指したい、あらためてそう思うことができたお話でした。

（きょうとグリーンファンド 北川 井子）

# 京都市「市民協働発電制度」との関わり、 そしてこれから

一般社団法人市民エネルギー京都 伊東 真吾

わたしたちの取り組みがスタートしたそもそもの経緯は、2011年夏に再生可能エネルギー特別措置法が国会で成立したことで、「自治体の施設の屋根を活用して、自分たちが事業主体となって、市民等の出資を集め、太陽光発電事業を運営して地域に還元できるのではないか」とのアイデアが浮かんだことに始まります。

そして、「京のアジェンダ21フォーラム・再生可能エネルギーワーキンググループ・市民協働発電勉強会」で2011年秋より、環境団体、金融機関、他地域の先進事例の方、太陽光発電業界団体等を招いて検討を行い、「目指すべき市民協働発電のイメージと論点」としてとりまとめ、京都市に提案を行いました。

この提案を踏まえ、京都市長も議会で実現に前向きな姿勢を示したことを受け、自宅に太陽光発電がつけられない家庭でも、少額から出資を通じて再生可能エネルギー普及に貢献できる仕組みとして、「京都市市民協働発電制度」の設計が京都市サイドで行われ、2012年12月以降順次、要件を満たした京都市施設の屋根を、20年間借りて事業を運営する団体の公募が行われました。わたしたち「一般社団法人市民エネルギー京都」ではこの仕組みを活用して、現在京都市施設4箇所で、計169kWの太陽光発電所を運営しています。資金調達にあたっては、インターネット上で出資申し込みが可能な「クラウドファンディング」の仕組みを用い、京都市民を始めとして全国の方から、計1290万円を出資していただいています（残りは金融機関からの借入と自己資金）。

屋根を借りている施設や地域への貢献活動としては、これまでに、山科まち美化事務所での環境イベントへの出展、地域の方を対象とした学習会、また、京都市立深草小学校の省エネ診断、6年生を対象とした理科の出前授業「電気の作り方」を行いました。また、深草小学校の近くで市民農園を運営されている傍ら、竹林整備や美化活動などに精力的に取り組まれている「市民農園風緑」の野菜詰め合わせセットを、一定金額以上を出資された方にお渡しすることも予定しています。

京都市では、市有施設の屋根貸し制度を通じて、私達以外の団体や民間営利事業者含め、これまで35施設で、計1156.9kWの太陽光発電が設置・運営されています。事業の開始時には様々な困難もありましたが、結果的にこれだけの規模の屋根が活用されるに至った理由として、

- ① わたしたち市民サイドからの提案や事業化に向けた取り組みがあった。
- ② トップの京都市長のGOサイン
- ③ 担当部局である地球温暖化対策室が、建物を所管する各部局に対して横串を上手に刺すことができた。

という3つの要素があります。これは、例えば近畿圏で同様の成果が挙げられている滋賀県湖南市、兵庫県宝塚市などにもあてはまることと言えます。



地域住民、まちづくりの専門家、区役所職員交えてアイデア出し

さらにわたしたちは、自治会・地域団体等が、自らの公益活動のための収益を得たり、地域の環境学習への活用、また災害時の自立運転機能の活用等を目的として、より小規模（太陽光の場合10kW前後）の発電施設をつくる際に、設置の技術可能性や、資金調達・運営方法などをアドバイス・支援できる仕組みをつくろうということで、2013年度に京エコロジーセンター助成金事業で試行した結果を踏まえて提案した結果、2014年度より「市民協働発電制度地域コミュニティ版支援コーディネーター派遣制度」ができ、去年の秋から半年で京都市内10地域に専門家が派遣されました。屋根に太陽光発電を設置したいと考えているマンションの管理組合、コミュニティセンターの運営協議会、また、山村で行事のためのライトアップの電源をマイクロ小水力発電でまかなうことを計画している集落など、対象地域もバラエティに富んでいます。今後は、電気だけでなく木質バイオマスの熱利用や、そのための間伐材の集材の効率化なども含めた、より地域の資源に即した再生可能エネルギー利用の動きを、地域活性化のストーリー作りもからめつつ、応援することにつながると良いなあと考えています。また、資金調達に関わる支援の拡充も今後の検討課題でしょう。



発電に使える水路を検討中

◆きょうとグリーンファンドに入会して

・・・山本照美さん

きょうとグリーンファンドを知ったのは京エコロジーセンターの環境ボランティアの先輩からです。私自身は京エコロジーセンターのエコメイトになってから6年目になるエコサポーターです。そもそもエコロジーセンターのボランティアになる前から太陽光発電には大変関心がありました。地球温暖化に対する危機感と原子力発電に対する危機感から、何とか継続して安全に確保できるエネルギーは無いだろうかと考えていて、地球と運命共同体である太陽に希望を持ちました。正直なところ、きょうとグリーンファンドを知った当初は幼稚園や保育園に太陽光パネルを設置する活動されているんだなぐらいの認識でした。京エコロジーセンターのエコメイトになって間がなかったので他に何か出来ることがあるかもとも思っていました。しかし、エコメイトを卒業してエコサポーターになって、さて自分に何が出来たか、出来るかと考えた時、その場限りの活動ばかりで、これでは意味が無いと感じました。地球温暖化は5年前よりずっと深刻な状態になってしまっています。具体的に何かを行動して行きたい。少しでも現実を変えたい。では何を・・・と考えた時、初心に戻って太陽光発電に係わる事をしたいと思いました。その時に、ずっと心に引っかかっていたきょうとグリーンファンドが大きく浮かび上がって来ました。

実際にどのような活動をされているのか環境ボランティアの先輩に伺い、本当に地道に一步一步確実に太陽光パネルの設置をされて来たばかりではなく、係わられた方々の環境に対する意識の持続にも尽力されているのを知りました。是非活動に参加させていただきたく思い、すぐに入会させていただきました。幸運にも事務局のお手伝いをさせていただくことになって、充実した日々を過ごさせていただいております。

・・・事務局よりお知らせ・・・

今年度より会計担当が交代することになりました。3年間、担当して下さった加川さんには、認定NPO法人申請の際には大変ご尽力いただきました。今後のご活躍を心からお祈りしています。新しい担当の吉村さんは頼りになる経理のエキスパート、今後ともよろしく願います。

◆サラバ！ぐりふぁん ・・・加川裕介さん

サラバ！といっても、第152回直木賞を受賞した西加奈子さんの小説の話ではない。ぐりふぁんを離れるにあたり、「さよなら」は、なんとなくありきたりのうえ、寂しい感じがするし、「あばよ」だと柳沢慎吾になってしまう。かといって「グッドバイ」は、太宰治みたいで微妙だ。玉川上水ならぬ琵琶湖疏水に飛び込むような気は毛頭ないが、読者のみなさまに余計な心配をお掛けするかもしれぬ。となれば、「サラバ！」だな、というだけである。最後に、ぐりふぁんでの3年間を振り返り、渥美清が演ずるところの映画の主人公になった気持ちで、一筆したためたい。

(映画のラスト、寅さんからハガキが届くイメージで。)

拝啓 ぐりふぁんレター読者のみなさま 私こと、ぐりふぁんにおります日々は、思い起こせば恥ずかしきことの数々、今はただ皆様のご厚情を想い、感謝の日々を過ごしております。末筆

ながら、みなさまのご多幸とぐりふぁんの益々のご発展を、遠い旅の空からお祈りしております。

3年間、大変お世話になり、ありがとうございます。サラバ！ 恐惶謹言

◆はじめまして ・・・吉村尊成さん

6月から会計担当となりました吉村尊成です。退職と増改築と環境ボランティアになったことを記念して2008年に太陽光発電を設置しました。その関係から京田辺市内にも設置できれば良いと思っています。

お誘いを受けた時に、会社での経理経験を生かしNPO関係でお手伝いができ、また地元でも自然エネルギーの導入に貢献できれば良いと思いました。今後はしっかりスタッフの支援ができれば良いと思って頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

京都市出身、京田辺市在住、団塊の世代のはしりの68歳です。

 編集後記

・安保法制の論理的破綻があからさまになってきました。胸の中にあった大きな違和感をきちんと見つめていくことは、ほんとに大事と改めて思います。多くの人たちが言葉にし、行動につなげていけば、流れは変わるのでしょうか。(K.O)

・「急いで事は仕損じる」という諺がありますが、急いで痛い目にありました…。これからは、慎重に日々を過ごそうと思っております。ただ、急がなくてはいけないものもあります。STOP温暖化！(Y.F)

・「戦争を知らない子どもたち」だった私たち、なのに戦争をする大人になってしまうのか？流されるだけではなく、今、声を上げなくては…(S.K)

## 《 ぐりふあん日誌 》

2014年	3/25,26 京都新聞取材
12/10 伊事業所工事についてロケックと工事請負契約	4/2 第104回理事会
2015年	4/7 認定特定非営利活動法人として認定書交付
1/9 再生可能エネルギー-WG会議出席 地域創造基金打ち合わせ	4/16 生活介護施設「こもれび」訪問、面談
1/18 京と地球の共生府民会議環境連続セミナー「行動するならば今でしょ」参加	4/17 久世おひさまプロジェクト外設置協力金を返済
1/20 認定NPO法人申請(京都市)	4/23 伊おひさまプロジェクト外収支報告について協議、合意
1/23 伊おひさまプロジェクト打ち合わせ:伊事業所	4/27 再生可能エネルギー-WG会議出席
1/26 京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議出席	4/30 京都府環境審議会出席
1/31 シボジウム「電気の未来、エネルギーの未来」参加 (特定非営利活動法人サカオてんとさん主催)	5/18,19 2014年度会計監査
2/2 京都グリーン購入ネットワーク幹事会出席	5/20 上鳥羽北部いきいき市民活動センター訪問、面談
2/10 第103回理事会	5/21 第105回理事会・2015総会、学習会
2/14,15 気候ネットワーク全国シボジウム参加	5/22 環境自治体会議「こま会議」事例紹介
2/17 再生可能エネルギー-WG会議出席	5/25 自然観察会:大宅こども園(京都御苑)
2/20 伊おひさまプロジェクト点灯式	5/30 自然観察会:妙林苑(京都府立植物園)
3/5 認定NPO法人申請 実地調査(京都市)	6/2 上鳥羽北部いきいきプロジェクト外打合せ
3/9 阪急・阪神ええまちづくり隊運営会議出席	6/6 上鳥羽北部いきいきプロジェクト外グリーンカーテン講習会
3/11 阪急・阪神ええまちづくり隊打ち合わせ:法然院森のセンター	6/20 上鳥羽北部いきいきプロジェクト外打合せ:京エコーセンター
3/22 阪急・阪神ええまちづくり隊 ～自然の恵みやエネルギーを体感しよう～:法然院森のセンター	6/23 自販機プロジェクト外打合せ (エアリング マネジメントサービス 大浦さん、木田さん)
	6/26 省エネワークショップ:陵ヶ岡保育園(職員研修)
	6/29 環境腹話術:おおやけこども園

### □ 寄付のお願い

おひさま基金への寄付は随時お受けしています。

寄付の方法:ゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817

加入者名:きょうとグリーンファンド

会員数 73

正会員 46 賛助会員 23

法人会員 4 2015/7 現在

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。  
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206

TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org

URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

